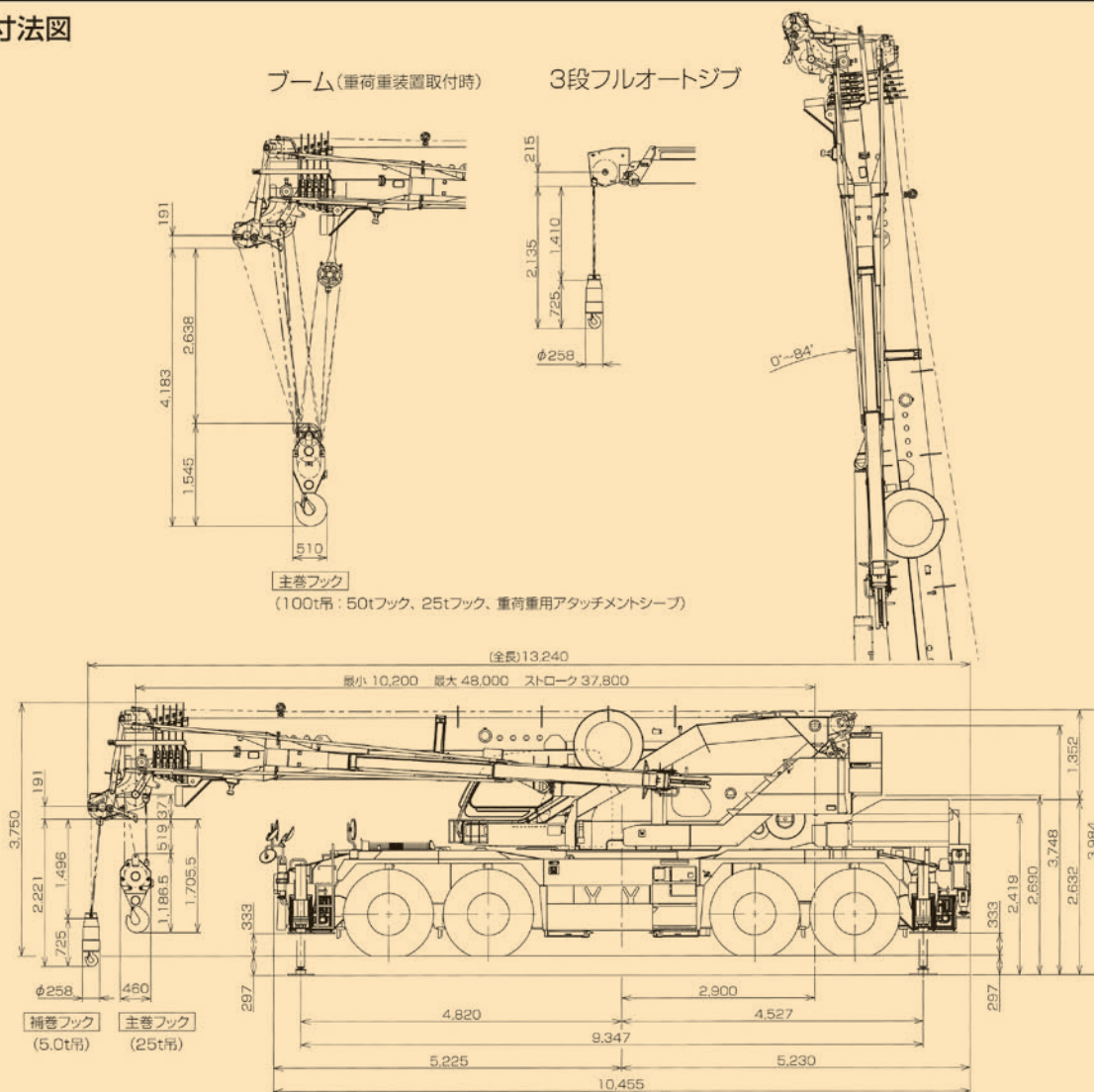


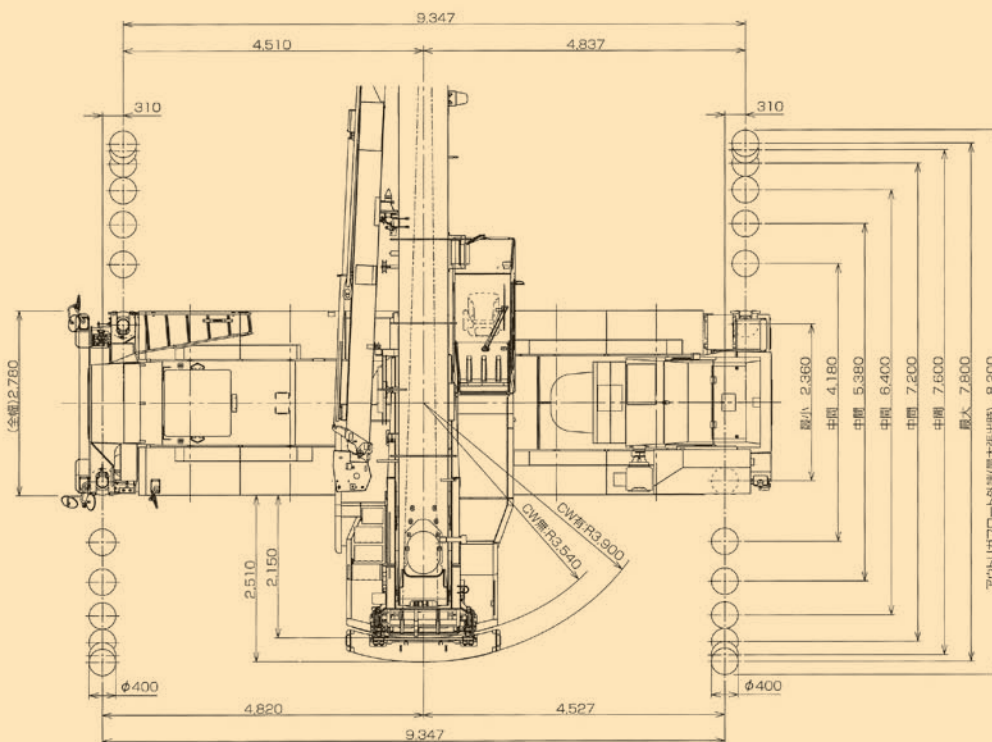


GR-1000N (TADANO)

■主要寸法図



本図に記載のAML外部表示灯、キャブサポートガード、作業時リヤカメラ、LEDマーカールンプ、路肩灯はオプションです。

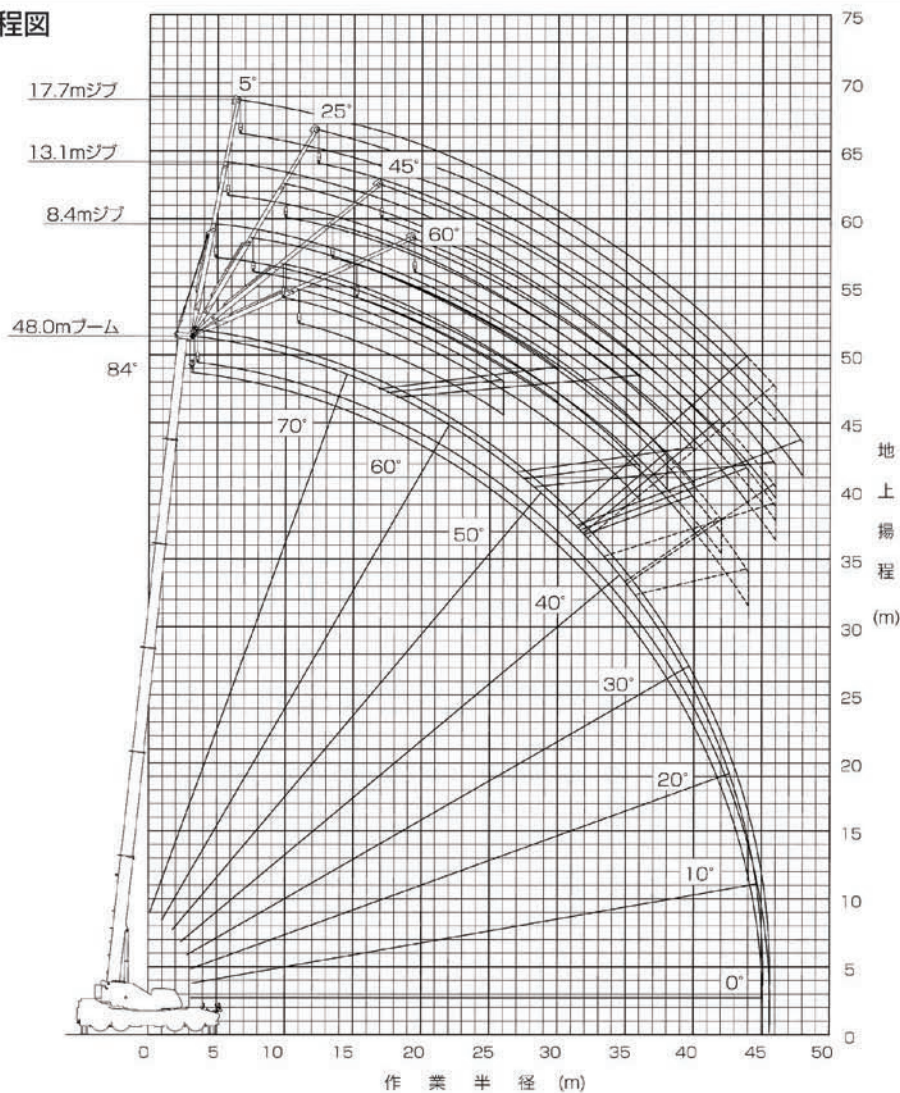


本図に記載の作業時リヤカメラ、リモコンサーチライトはオプションです。



GR-1000N (TADANO)

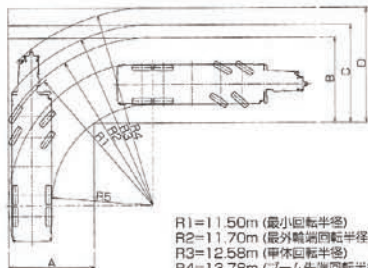
作業半径一揚程図



- (注) 1. 上図は、ブームおよびジブのたわみを含んでいません。
 2. 上図は、アウトリガ最大 (7.8m) 張出状態、カウンタウエイト装着状態での図です。
 3. 上図破線の部分は、スマートチャート1性能の場合を示しています。

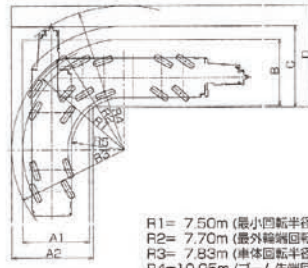
最小直角通路幅

前4輪ステアリングで右折する場合



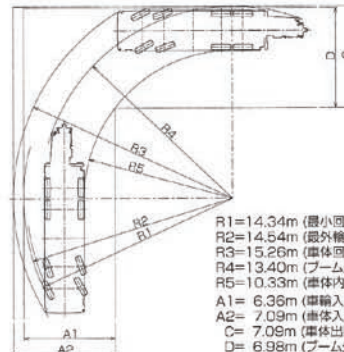
- R1=11.50m (最小回転半径)
- R2=11.70m (最外輪端回転半径)
- R3=12.58m (車体回転半径)
- R4=13.78m (ブーム先端回転半径)
- R5=7.06m (車体内側回転半径)
- A=5.97m (入口通路幅)
- B=5.97m (車輪出口通路幅)
- C=6.85m (車体出口通路幅)
- D=8.05m (ブーム先端出口通路幅)

8輪ステアリングで右折する場合



- R1=7.50m (最小回転半径)
- R2=7.70m (最外輪端回転半径)
- R3=7.83m (車体回転半径)
- R4=10.05m (ブーム先端回転半径)
- R5=3.86m (車体内側回転半径)
- A1=4.64m (車輪入口通路幅)
- A2=5.67m (車体入口通路幅)
- B=4.64m (車輪出口通路幅)
- C=5.67m (車体出口通路幅)

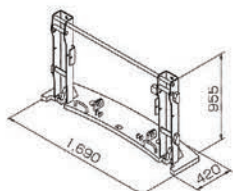
後4輪ステアリングで右折する場合



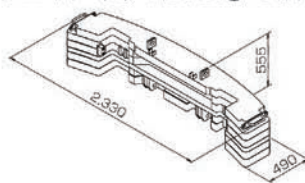
- R1=14.34m (最小回転半径)
- R2=14.54m (最外輪端回転半径)
- R3=15.26m (車体回転半径)
- R4=13.40m (ブーム先端回転半径)
- R5=10.33m (車体内側回転半径)
- A1=6.36m (車輪入口通路幅)
- A2=7.09m (車体入口通路幅)
- C=7.09m (車体出口通路幅)
- D=6.98m (ブーム先端出口通路幅)

搬送主要部品

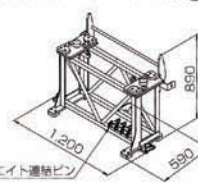
カウンタウエイト
ウエイト (1) 240kg



ウエイト (2) 1,870kg×2個



架装サポート 110kg



ウエイト連結ピン

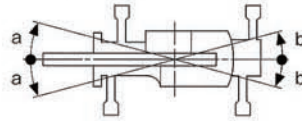


GR-1000N (TADANO)

■ 定格総荷重表注意事項

【アウトリガ使用時】

1. 定格総荷重は、水平堅土上においてクレーンを水平に設置した状態で、つり具と主巻フック質量(50tフック:430kg、25tフック:300kg)を含んだ値です。太線より上はクレーンの強度により定められ、下はクレーンの安定度によって定められています。
2. 作業半径は、ブームおよびジブのたわみを含んだ実際の値に基づいていますので、必ず作業半径を基準にしてください。
3. シングルトップ使用時のワイヤロープ巻掛本数は1本です。
シングルトップの定格総荷重は、ブームの定格総荷重から50tフック使用時:320kg、25tフック使用時:190kgを差し引いた値とし、つり具と補巻フック質量(110kg)を含んだ値で、かつ限度は5.0tです。
4. 高速巻き下げは、フックのみを降下するときを使用してください。また、急激なレバー操作は避けてください。
5. 各ブーム長さにおける標準フックとワイヤロープ標準巻掛本数はブームの各定格総荷重表中最下段に記載しています。
ただし、この掛数以外で使用する場合は、ロープ1本当り主巻5.0t以下、補巻5.0t以下としてください。
6. 側方域でのつり上げ性能は、アウトリガ張出幅によって異なります。張出幅に応じた性能で作業をしてください。
また、前方・後方域でのつり上げ性能は「アウトリガ最大張出」の定格総荷重ですが、フロントアウトリガ張出幅とリヤアウトリガ張出幅の組み合わせによってその前方・後方域の範囲(角度a、b)が異なります。



前方域									
角度 a°		フロントアウトリガ張出状態							
		最大張出	中間張出					最小張出	
		7.8m	7.6m	7.2m	6.4m	5.38m	4.18m	2.36m	
リヤアウトリガ張出状態	最大張出	7.8m	90	75	65	55	40	10	5
		7.6m	75	70	65	50	40	10	5
		7.2m	65	65	60	50	20	10	5
	中間張出	6.4m	60	55	55	45	15	10	5
		5.38m	50	50	45	25	15	10	5
		4.18m	45	45	25	20	15	5	5
	最小張出	2.36m	25	20	20	15	10	5	5

後方域									
角度 b°		フロントアウトリガ張出状態							
		最大張出	中間張出					最小張出	
		7.8m	7.6m	7.2m	6.4m	5.38m	4.18m	2.36m	
リヤアウトリガ張出状態	最大張出	7.8m	90	75	70	30	25	20	15
		7.6m	75	70	35	25	25	20	15
		7.2m	30	30	25	25	20	20	15
	中間張出	6.4m	20	20	20	20	15	15	10
		5.38m	15	15	10	10	10	10	10
		4.18m	5	5	5	5	5	5	5
	最小張出	2.36m	5	5	5	5	5	-	-

■ 定格総荷重表注意事項

【アウトリガ不使用時】

1. 定格総荷重は、水平堅土上においてタイヤのエア圧が規定圧(900kPa{9.00kgf/cm²})で、かつサスペンションシリンダを最縮小した場合の値で、ブーム作業時はつり具と主巻フック質量(50tフック:430kg、25tフック:300kg)を含んだ値です。太線より上はクレーンの強度によって定められ、下は安定度によって定められています。実際の作業では、地盤、作業状態等を考慮して使用してください。
2. 作業半径は、ブームおよびタイヤのたわみを含んだ実際の値に基づいていますので、必ず作業半径を基準にしてください。
3. 各ブーム長さにおけるフックのワイヤロープ標準巻掛本数は下表のとおりです。ただし、この掛数以外で使用する場合は、ロープ1本当り主巻5.0t以下、補巻5.0t以下としてください。

ブーム長さ	10.2m	13.7m	17.2m	シングルトップ
巻掛本数	3	3	3	1

4. 「前方」のクレーン作業は、AMLの「前方位置シンボル」が点灯しているときに行ってください。
前方の範囲は、ブームがキャリヤの前方2°以内です。



5. シングルトップの定格総荷重は、ブームの定格総荷重より50tフック使用時:320kg、25tフック使用時:190kgを差し引いた値とし、つり具と補巻フック質量(110kg)を含んだ値で、かつ限度は5.0tです。
6. 高速巻き下げ作業、ブーム長さが17.2mを超えるブーム作業(カウンタウエイト装着時は10.2mを超えるブーム作業)およびジブの使用はしないでください。
7. つり荷走行は、「駆動モード切替」スイッチを「6WD低速走行」にし、シフトスイッチを1速にして行ってください。
8. つり荷走行は、旋回ブレーキをかけ、荷が振れないように地面近くに保持し、1.6km/h以下で行ってください。特に急ハンドル、急発進、急ブレーキは避けてください。
9. つり荷走行中には、クレーン作業を行わないでください。

